

平成 24 年度 室内環境学会第4回役員会議事要旨

日 時：平成 24 年 11 月 6 日（金）15:00～17:00

場 所：(株) アイデック 7階会議室

出席者：小野、中井、関根、篠原、柳沢、樺田、野崎
(以上実出席)、東、柳、濱田、松木（委任出席）

事務局：中島、色摩

欠 席：雨谷

議事次第：

1) 次期会長選挙

松村選挙管理委員長から次期会長選挙信任投票の結果が提出された。これに基づき小野会長から、中井里史現副会長が次期会長に信任された旨報告された。中井副会長から挨拶があり、各役員については継続性を考慮しつつ後日決定する旨発言があった。また、法人化以降の理事会では、委任出席が認められないことを鑑み、skype 等を利用した参加も考えられ、設備導入の検討もしたいとの発言があった。

2) 平成 24 年度学術大会進捗状況報告

関根大会長から報告があった。一般演題 81 件、分科会 5 件の発表が集まり、確定したプログラムをホームページに掲載したとのこと。当日に向けた会場準備等が意進行中である。また 12 月 16 日（日）にオプションツアーとしてレインボーブリッジを渡るランニングを企画しているとのこと。

大会に関し、演題申込と要旨の提出時期をずらした方が演題数は増えるのではないかと提案があったが、受付サーバーのレンタル期間が長くなり、費用が増すとの回答があった。また要旨に英文要旨をつける必要があるのか、という意見や分量を減らしてはどうかとの意見が出され、検討課題とされた。

3) 委員会等報告

広報委員会：篠原委員長より報告があった。HP に関しては、小さな画面の PC からアクセスした際の画面の不具合等に対して修正を施したこと、学術委員会からの情報の掲載を試験的に行うことなどが報告された。また配付されたポスターのサイズが大きいとの意見を受け、来年は一回り小さくする方針であること、ニューズレターでの大会長インタビューについて準備中であるが、次回は演題登録より前に配信できるようにしたい、などの発言があった。

出版委員会：関根委員長より、室内環境第 15 巻第 2 号発行に向けて準備中であり、現在 2 稿の校正中であるとの報告があった。

社会連携委員会：中井委員長より、Q&A については作業中であり、整理が済んだものから順にアップしてゆくと報告された。また国際シンポへの招聘費用について具体的な議論が行われ、航空券の費用は先方に実費を確認して対応することとなった。また、12 月 14 日夜にウェルカムディナーを開催するので、役員には是非参加して欲しいとの依頼があった。英文誌については熊谷一清委員に交渉を一任していること、2013 年夏にバーゼルでの国際会議においてワークショップを開催する可能性があること等の報告があった。その他、12 月 14 日には法人会員との意見交換会を企画しており、フリーなディスカッションを予定しているので役員には参加して欲しいとの依頼があった。

商標管理委員会：柳沢委員長から報告があった。商標会員を募集しているところであるが、1 件の打診があると報告された。また入会に対する具体的手続きについて、入会には申込、審査、入会の段階を踏む必要があり、審査と入会にはそれぞれ費用が発生することが説明された。また、入会は標準法の 1 号ごとに手続きが必要との解釈が示された。

4) 法人化検討 WG に関する件

中井代表からこれまでの検討状況が報告された。2012 年 11 月 17 日までパブリックコメントを受け付けているところであるが、現時点では特に意見は届いていないとのこと。

5) 評議員応募状況

中島事務局長より、評議員の改選についての説明と、現時点での応募状況の報告があった。非改選評議員と今回の候補者を併せて定員以内であるため、学術大会時の評議員会で選出手続きをするとの説明があった。

6) その他

・会員動向について事務局から報告があった。今

年度は会費滞納者に積極的に督促を行っている
と報告された。

・本会の財務状況について説明があった。平成 24
年度第 2 回役員会で決定された、委員会等活動費
50%留保による返金見込み額を加えた中間決算で
は、30 万円強の黒字となる見込みとなった。しか
し平成 24 年度単年では 80 万円程度の赤字となる。
近年の単年度赤字の背景には、委員会活動費等の
増加があり、学会活動の活性化と共に支出が増し
ている状況であるので、会費の見直しなどの議論
が必要ではないかとの発言があった。これに対し、
学会誌の紙質の変更や大会参加費の変更などの
案も出された。

・旅費規定について質問があった。委員会出席に
関する旅費基準（ガイドライン）を定める規程が
存在するが、分類が大まかであるため、実費より
若干高くなる場合がある。これを実情に合わせて

変更して運用すべきかどうか、との質問があり、
現状では規定通りの運用で仕方ないとの判断が
なされた。

・大会要旨集の発行日について質問があり、奥付
は研究発表会初日の日付とすることが確認され
た。また、前回大会の大会長奨励賞（口頭発表）
受賞者の表彰式への案内は事務局から行うこと
が確認された。併せて永年賞、査読者賞、論文賞
についても同様とすることが確認された。

・名誉会員の推薦に関して質問があった。名誉会
員は「評議員会の推薦により会長が指名する」こ
ととなっているので、評議員宛に推薦依頼のメー
ルを送ることとした。

以 上